

イチゴ

やさいの里営農センター 営農指導員 川島 俊一



農作業

テクニカルダイアリー



玉ネギ

大網経済センター 営農指導員 鈴木 千裕

天敵の導入前にはハダニ類の発生をしっかりと抑えておく必要があるため、導入前に農薬を数回にわたり散布しましょう。定植前はモベントフロアブルを、

導入前の準備

ハダニ類の発生をゼロにする必要があるなど課題は多くあります。



写真③ イチゴのハダニ被害

ハダニ類対策

ハダニ類(写真③)は一度まん延してしまうと防除が難しく、農薬散布を何度も行うことになり、コスト増・収量減など収入面で大きな影響があります。

近年、農薬散布の回数が減ったことで問題になることも多くなっています。発病してしまうと(白い粉が見えたときには)、抑えることが難しくなるので、定期的なローテーション散布で発生を未然に防ぐ必要があります(表③参照)。うどんこ病は乾燥時に発病がみら

うどんこ病対策

近年、農薬散布の回数が減ったことで問題になることも多くなっています。発病してしまうと(白い粉が見えたときには)、抑えることが難しくなるので、定期的なローテーション散布で発生を未然に防ぐ必要があります(表③参照)。うどんこ病は乾燥時に発病がみら

表③ イチゴのうどんこ病に登録のある薬剤

薬剤名	希釈倍率	使用時期	使用回数	特性
アフェットフロアブル	2000倍	収穫前日まで	3回以内	予防
ベルコートフロアブル	2000～4000倍	収穫前日まで	3回以内	予防
フルピカフロアブル	2000倍	収穫前日まで	3回以内	予防
ショウチノスケフロアブル	2000倍	収穫前日まで	2回以内	予防・治療
プロパティフロアブル	3000倍	収穫前日まで	3回以内	予防・治療
トリフミン水和剤	3000倍	収穫前日まで	5回以内	予防・治療

表④ イチゴに登録のある気門封鎖型薬剤

薬剤名	希釈倍率	使用時期	注意事項
ピタイチ	500倍	収穫前日まで	イチゴのみ登録
サフオイル乳剤	300倍	収穫前日まで	
エコピタ液剤	100倍	収穫前日まで	

営農なんでも相談室

皆さまの営農に関する悩みを、JAの総合事業の力で解決！栽培管理、コスト削減、規模拡大、求人・雇用のことなど、お気軽にご相談ください。

JA山武都市
営農なんでも相談室
(本所 営農部内)
☎0120-972-860

ミヤコバンカーの特長



図① ミヤコバンカーについて

ミヤコバンカーとは、ミヤコカブリダニパック製剤と天敵保護装置「バンカーシート®」を組み合わせた天敵資材です。天敵パック製剤を耐水性の紙製シートの中に入れて設置することで、降雨、散水、葉散の影響を軽減します。またシート内に産卵基質(フェルト)、保水資材を同時にすることで、シート内に天敵の生存に適した環境を作り出し、放出します。

天敵の利用

定植後はダニオーテフロアブルを使用するのがお勧めです。

天敵資材の中でも、ミヤコバンカー、スパイカルプラスについては袋の中に天敵と餌が入っており、長い時間放出される資材です(図①)。時間がかかりますが、継続的效果があるため、導入時の防除さえしっかりしていれば、長時間安定してハダニ類を抑えることが可能です。ただし、拡散までに時間がかかるため、導入時期は直接放飼するものと比べ、1週間以上早く設置する必要があります。

④参照。

れることが多いですが、実際の感染は湿度が高くなったときに起こります。雨の前など多湿が予想されるときに予防剤を散布することがポイントです。気門封鎖型の薬剤(ピタイチ等)はハダニ類防除だけでなく、うどんこ病にも予防効果が期待できるので、併せて散布を行ってください(表④参照)。

令和5年産を振り返って

本年は3月に天候不良が続き、べと病の発生が多く見られました。そのため、出荷が早まり4月はM・L中心で2Lが少ない状況になりましたが、5、6月は回復し2L・L中心の作柄になりました。また価格については、昨年の価格高騰と比べると今年並みに落ち着きました。

病害虫対策について

●べと病(写真①)
べと病の症状は、光沢がなくなり黄緑色に変色し葉が折れやすくなり、最後には枯死に至ります。初めは圃場の一部に発生し徐々に圃場全体に広がっていきま。圃場で発病株を発見した場合は、直ちに圃



写真① べと病

場の外に除去しましょう。多発してからの農薬防除では効果があまり期待できないので、発病前からの予防散布に努め、葉の裏までしっかり薬液がかかるよう、また展着剤を加えて防除するようにしてください。

●白色疫病(写真②)

白色疫病に感染すると葉の先端部に不鮮明な病斑を形成し、病斑が拡大すると葉がよじれ、下垂し、白くなり折れて枯死します。低温・多湿条件下で発生しやすいので、排水不良畑や浸冠水するような圃場は避けましょう。発生した株は周囲の感染源になるので放置せず、早めに抜き取って圃場の外に持ち出してください。



写真② 白色疫病

●ネギアザミウマ

成虫、幼虫ともに食害を行い食害痕は「かすり状の白斑」となり、多発すると葉全体が白化し、生育抑制や枯死を引き起こします。発生状況に応じて7、10

表① 玉ネギに登録のある殺菌剤

薬剤名	希釈倍率	使用時期	使用回数	対象病害	特性
リドミルゴールドMZ	500～1000倍	7日前まで	3回以内	べと病、白色疫病	予防・治療
ジマンダイセン水和剤	400～500倍	3日前まで	5回以内	べと病、灰色かび病、白色疫病、黒斑病ほか	予防
ダコニール1000	1000倍	7日前まで	6回以内	べと病、灰色かび病、白色疫病	予防
プロボーズ顆粒水和剤	1000倍	7日前まで	3回以内	べと病、白色疫病	予防・治療
ランマンフロアブル	2000倍	7日前まで	4回以内	べと病、白色疫病	予防
バリダシン液剤5	500倍	3日前まで	5回以内	腐敗病、軟腐病	予防・治療

表② 玉ネギに登録のある殺虫剤

薬剤名	希釈倍率・使用量	使用時期	使用回数	対象害虫
ダイアジノン粒剤5	3～5kg/10a	播種時または定植時	2回以内	タネバエ、タマネギバエ、コガネムシ類幼虫
ディアナSC	2500～5000倍	前日まで	2回以内	ネギアザミウマ、ハスモンヨトウ、ネギハモグリバエ
ファインセーブフロアブル	1000～2000倍	3日前まで	3回以内	ネギアザミウマ
モスピラン顆粒水溶剤	2000倍	7日前まで	3回以内	

日間隔での防除が必要です。●タネバエ
幼虫が鱗茎に侵入し食害するため、根が伸びず葉がしおれ、食害を受けた鱗茎は腐敗

します。またタネバエの成虫は腐ったものに寄っていく傾向があるため、発生の多い圃場では牛ふん、鶏ふん等の堆肥は多用しないようにしましょう。